

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	36246
事業名	国際芸術祭事業費					
評価担当課	所属名	市)文化部 文化振興課				
	課長名	青山 貴志	担当者名	小澤 弘希	電話番号	011-211-2314
施策名	主	シティプロモート戦略の積極展開				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	芸術祭の市民浸透と、市内関係機関等との連携や人材育成等を図る。			
		長期	芸術祭を継続的に開催することで文化芸術自体が札幌の魅力となり、札幌の国際的なプレゼンスが高まること、多様な人材が集積・交流し活動するまちになることを目指す。			
	取組内容	多様な分野との連携によって新たな価値を創出し、札幌ならではの文化芸術の魅力を国内外に発信するため、札幌国際芸術祭を3年に一度定期的に開催するとともに、芸術祭会期外においても、機運醸成や現代アート・メディアアートの普及啓発、地元アート人材の育成等の取組を行う。 ・札幌国際芸術祭2024開催に向けた準備・検討および広報プロモーション、プレイベントの実施 ・札幌市資料館を主な拠点とした芸術祭の普及啓発事業の実施				
	実施結果	札幌国際芸術祭2024のディレクターを選定、広報プロモーションを通じて機運醸成を行った。会期外の普及事業等として、市内5文化施設と連携した鑑賞サポートプログラム「SIAFふむふむシリーズ」を新たに実施、展示内容を解説するパンフレットや動画を制作した他、継続事業として、札幌ならではのメディアアートを研究する「SIAFラボ」の活動や、アートマネジメントの育成を目指す「SIAF部」の活動を実施した。				
事業実施における工夫点	芸術祭が取り扱う現代アート・メディアアートについてより理解を深められるよう、多様な鑑賞サポートプログラムを実施した。また、コロナ禍でもより多くの方に鑑賞及び体験の機会を提供できるよう、オンラインを積極的に活用した。					
対象者	市民、札幌を訪れる観光客	開始	平成23年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	札幌市文化芸術基本条例、文化芸術基本法					
他都市の状況	横浜市「横浜トリエンナーレ」、愛知県「国際芸術祭あいち」、新潟市「水と土の芸術祭」、さいたま市「さいたま国際芸術祭」、瀬戸内地域「瀬戸内国際芸術祭」、長野県大町市「北アルプス国際芸術祭」、石川県珠洲市「奥能登国際芸術祭」など					

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	129,749	64,000	53,587	117,000	
うち特定財源	55,000	23,750	18,000	35,000	
人工	11.4	7.0	6.8	13.0	
人件費	82,080	50,400	48,960	93,600	
計(事業費+人件費)	211,829	114,400	102,547	210,600	
事業費の内訳	令和3年度決算	○実行委員会への負担金48,250千円 (実行委員会運営費、SIAF普及啓発事業費、スタッフ費、広報プロモーション費、事務局諸経費) ○職員関連費等5,337千円			
	令和4年度予算	○実行委員会への負担金98,000千円 (実行委員会運営費、作品制作費、SIAF普及啓発事業費、スタッフ費、広報プロモーション費、事務局諸経費) ○職員関連費等19,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	芸術祭の普及啓発のためのイベント実施回数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	20回	30回	56回	30回	
	指標名				
活動指標2	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	指標名	芸術祭及び関連イベント来場者における海外からの来場者の割合			
成果指標1	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	-	-	-	-	
	指標名				
成果指標2	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	指標名				
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	市内文化施設との連携による鑑賞サポートプログラムや、札幌の冬や除排雪等の都市インフラに着目した展示イベントを行った。また、継続事業としてSIAFラウンジを活用した情報発信等を行い、市民の現代アートへの興味・関心を高め、多様な芸術表現に触れられる取り組みを実施することができた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	芸術祭会期外も継続的に一定程度の規模で芸術に触れる機会の創出や広報活動を行うことが重要であると考え、新型コロナウイルス感染症拡大に配慮しながら、オンラインを積極的に活用し、自宅で楽しめるコンテンツの提供や感染症対策を行った上でのイベントを開催し、その規模、回数ともに適切であったと考えている。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	一部のイベントにおいて、札幌市民交流プラザ等と連携して事業を実施することで、広報活動等において相乗効果を発揮するとともに、経費の節約を行うことができ、効率的に事業を実施することができた。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	展示イベントでのアンケート調査の結果、9割近い人が展示について、「とても良い」「良い」と回答していることから、一定の評価を得ている。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	札幌国際芸術祭は3年に一度のイベントであり、市民への浸透が課題となっていることから、さっぽろ雪まつり等既存事業との連携をはじめ、わかりやすく親しみやすいイベントや広報プロモーションを実施していく。				
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	新型コロナウイルス感染症のためオンラインを活用した企画を実施したほか、市内文化施設と連携した鑑賞サポートプログラムを実施した。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	オンラインコンテンツの配信や展示イベントを通じて、市民が文化芸術に触れる機会を創出し、また次回札幌国際芸術祭への機運醸成を高めることに繋げることができた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善    ○ 現状維持    ○ 休止・廃止 2023年度に開催する札幌国際芸術祭2024に向けて準備を進めるほか、SIAFの市民への浸透を目指し、興味を持ってもらえるようなイベントや広報プロモーションに取り組む。			
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小    ● その他 芸術祭は3年に一度の開催であり開催年度に向けて予算を増額していくことから前年の比較に馴染まない。		見直し効果額	0